令和５年度　小栗栖中学校学校評価実施報告書

教育目標

共創力（多くの人と協働し、新たな自分を創造する力）を身につけた児童・生徒の育成

（１）「確かな学力」の育成に向けて　『学力向上プラン』

重点目標

〇「授業で生徒が変わる」から「生徒が授業を変える」への変革

具体的な取組

・小中合同の授業研における事前・事後の研修の充実
・「学力向上チーム」を核とした、分析・考察・提言機関としての機能を高め授業改善等学びの質の向上を図る
・「教科会」を軸に、各教科における家庭学習の習慣化や定着などの重点指導目標の共有や達成に向けた取組を確実にする
・小栗栖ならではのカリキュラム・マネジメントの視点で探究的な学習を設定し、道徳・共創（総合的な学習の時間）と関連付ける
・定着してきた「自学室」、ＧＩＧＡスクール構想の拠点としての「多目的室Ａ・Ｂ」などを活用し、生徒の学びの場の学習環境を整備する
・学校図書館の整理と充実させることにより、学習活動に活かす取組を促進する
・「考える道徳」の定着に向けて実践し、道徳的判断力を醸成する。学年道徳、全校道徳などを積極的に取り入れる。
・小学校と連携し、７年間を通した「総合的な学習の時間の全体計画」の実施

（取組結果を検証する）各種指標

・小中合同授業研の児童生徒の反応
・ＩＣＴを活用した授業を取り入れ、実践できているか
・教科会等で授業の改善の話し合い活動ができているか
・平日や週末の学習課題は取組めているか
・学校図書館を活用できているか。また、図書館を活用した授業が行えているか
・自学室や多目的室などを活用し、自主学習の環境整備ができているか
・道徳を通じて生徒を生かす場をつくろうとしているか

中間評価

各種指標結果

・「学校生活が楽しいと感じている（いそいそと学校に通っている）」というアンケートの重要度は、「とてもそう思う」「そう思う」の合計で８５％を超えて期待値は高く、達成度は同項目で「とてもそう思う」「そう思う」の合計が７６％と少し上昇したが、さらに向上を目指したい。
・図書支援員の工夫もあり、図書室の活用率が順調に向上している。授業での利用がまだ少ないが、選書会を経て、蔵書の内容も充実してきた。
・全国学力・学習状況調査の生徒質問用紙の中から抜粋して１・２年生にもアンケートを実施した。経年を比較しつつ、結果を分析し活用したい。

自己評

分析（成果と課題）

・学習確認プログラムに対する意識は向上したが、なかなか結果には繋がっておらず、小中合同の会議でも交流し対策を講じている。

価	・４年目となり、小栗栖中学校の生徒のみならず石田小・小栗栖宮山小の児童にもに「いそいそ」という言葉が定着した。 ・生徒に取った学校評価アンケートで、「小栗栖中学校は、基礎学力をつけるために学習に力を入れている」に対する回答で重要度「とてもそう思う・そう思う」の合計の８６％で昨年度より少し上昇したが、達成度は昨年度に比べ下降していることから改善が必要である ・「宿題以外に予習や復習などの家庭学習に取り組んでいる。」というアンケートに、「している」が全校で１０％に満たず、一方、「あまりしていない・全くしていない」の回答に注目すると、合わせて５０％～６０％の割合で各学年に存在し、なかなか定着しないのが現状である。 ・宿題については、質・量・取組方法などについて、家庭学習を通して「どのように学ぶか」と視点で捉え、小学校と連携して児童・生徒の学習習慣の確実な定着につながるよう取り組んでいる。
	分析を踏まえた取組の改善 ・学校で学んだことを学校で完結させるのではなく、学んだことを基に実社会で自ら課題を発見し、さらに探究して解決する資質・能力、学び続けようとする態度を身につけさせる。そのために教員がまず意識し、実践できるようにさらに研修を重ねる。 ・各授業で実施している授業のめあて・振り返りをさらに定着させる。 ・自学室を活用し、自学の習慣を定着させたい。 ・各授業で「問いを作ること」を児童生徒が意識する授業の展開を意識する。加えてその「問い」が正しい「問い」であるかを検証していきたい。 ・主体的な学びにつながる自学自習の習慣の定着を図る取組が早急に必要である。 ・保護者にも定期的に伝えることで家庭との連携・協力をより一層強化する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・学校教育目標、めざす子ども像から見える授業や取組の達成度「生徒が授業を変える」にいたっているか。 ・自分の意見や思いを正しく伝えるために、筋道を整え、考えをまとめる力の必要性 ・学習確認プログラムの結果 ・家庭学習・宿題の内容・読書の在り方の検証結果
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・自分の意見や思いを相手にしっかり伝える力の育成をしてほしい。 ・学校評価アンケートの達成度の回答について「わからない」という回答が少しずつ減っているのは成果である。 ・学校運営協議会の活動の充実と学校の取組への側面的な支援

（２）「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 〇「自ら律する力」の向上を目指した教育活動の実践 〇自他を大切にし、公共の精神に基づく態度を育む
具体的な取組 ・学年実態に応じたコミュニケーション活動を通して、他者にやさしくかかわれる態度を育む ・人権に関わる学習を月例化し、「人権道徳」や「人権学活」として行う ・学校のきまりや法令遵守の態度を育成・定着していく指導を行う ・生徒の自主性や意欲を高めていける生徒会活動をしっかりと支える

・小中の教職員が子どもの『育ち』の姿を共有するための礎として、小中連携で異学年交流を積極的に行う
・「考える道徳」の定着に向けて実践し、道徳的判断力を醸成する
・道徳の評価について研究・実践し、年に２回程度の保護者への評価提示を行う
・地生連や地域の活動への積極的な参加をすすめ、地域を大切にできる学校の創造をめざす

（取組結果を検証する）各種指標

・道徳授業は年間計画のもと、系統立てて取り組めているか
・学校や社会のルールは守れているか（守らせているか）
・学校や社会のルールを理解させ、守らせる指導ができているか
・ＳＮＳのルールやマナーを守れているか（話をしているか）
・ＳＮＳの危険性やマナーについて指導できているか

中間評価

各種指標結果

・学級での道徳だけではなく、学年道徳を実施すること、外部の人材を活用すること、学年体制で指導内容検討をすることで道徳の授業を工夫し、保護者参観を呼び掛けて、保護者からの意見を求める。
・指導と評価の一体化の視点から、道徳の評価が授業の改善につなげられるよう、道徳主任を中心に情報を発信し、学年・学校体制で取り組んでいる。
・生徒会活動での異学年交流と縦割り集団活動の実践が実施しにくい中、工夫しながら、自己有用感の涵養につながるように工夫している。

自己評価	分析（成果と課題） ・道徳教育推進教師と道徳主任が連携し、指導内容や時数確認、企画を分担することでそれぞれの役割を果たしている。 ・合唱コンクールを全校体制行い、体育の部も保護者参観を認めて全校で実施したが、縦割り集団での取組ができず、交流が持てていない。
	分析を踏まえた取組の改善 ・３年間を見通した道徳の授業の在り方、評価の在り方の研究・共通理解に取り組む。 ・異年齢学年での交流や複数の学年での交流による行事を精選し取組を進める。 ・地域との関連性（保育園・幼稚園との交流・お年寄りとの交流等）を再開する。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・年間指導計画と各学年の実施状況の点検と指導内容の検討・改善。 ・縦割り集団活動を通した取組の推進、生徒会活動での異学年交流と縦割り集団活動の実践をし、自他を大切にする態度を育成する。 ・クラスマネジメントシート。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・ホームページ・学級通信等をスクリレも活用して道徳の授業の内容を家庭内での話題作りにできるようになってきた。 ・地域行事を再開している。参加を促すことで、人と人とのつながりを実感してほしい。 ・挨拶をすることの大切さ・意義を子どもたちに伝えてほしい。 ・地生連・少年補導委員会の諸行事の実施で仲間意識を持てる場が再開できた。 ・登校時の見守り活動を通した支援。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 〇働き方改革を実践し、より働きやすい、働きたくなる職場にする 〇健康な生活習慣を基盤として、「安心・安全」な学校生活の意識を向上させる
具体的な取組 ・感染症対策を徹底して行う ・保健教育・食に関する指導・安全教育・防災教育などを関連づけ、調和のとれた「自己管理能力」をもった生徒の育成を目指す ・「健康第一」のための職場環境の充実をはかり、心身ともに健康な生徒の育成を目指す ・部活動ガイドラインに基づき、「ノー部活デー・土日のいずれかの休養日」の設定を遵守し、心身ともに健康な生徒の育成を目指す ・健康を保持増進していく態度を育てていくための取組を積極的に行う ・組織的・計画的な安全管理体制を整え、「子どもの命を守りきることができる教職員体制の確立」を目指す ・非行防止教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室を実施し、生徒の意識の定着を図る ・生活習慣を自ら見直し、築いていく力を育てる取組を実践する
（取組結果を検証する）各種指標 ・規則正しい生活ができているか（保健委員会のアンケート調査結果） ・生活習慣確立に向けた指導をしているか（パーフェクトウィークの取組の結果） ・健康や安全に関して、自ら考えていくよう指導できているか

中間評価

各種指標結果 ・アンケート調査の「朝食を毎日食べていますか」という項目について、「毎日食べている」「ほとんど食べている」が合わせて７７％と昨年度に比べ少し下がっている。しかし、同じ質問をした２小学校の合計よりは少し高いところに日頃の取組の成果を感じた。 ・遅刻が減らないことが全校的な課題である。（生活習慣の確立を家庭でも学校でも） ・部活ガイドラインに基づき部活動停止日の設定、各部毎に休養日の設定している。大会が行えるようになりモチベーションは上がってきた。 ・生徒の体力と学校行事とを関連させ、行事予定表の作成を心がけた。	
自己評価	分析（成果と課題） ・生徒会が薬物乱用防止について啓発の発表をするなどの、生徒および保護者への啓発活動ができていない。 ・生徒が自分の健康管理に向き合えるようにもっていくためにも、生徒会が中心となり、朝食の摂食、起床就寝、自己管理等の基本的生活習慣の点検について継続的に取り組んでいく必要である。（パーフェクトウィークの取組） ・ガイドラインを遵守し、部活動の運営に努めることができている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・薬物乱用教室、非行防止教室を、発達段階をふまえて系統立てて実施する。 ・食教育に対する意識を教職員ともども向上させ、と関連付けた健康教育を進め、自己管理能力を育む基本的生活習慣の確立に向けた取組を推進する。

	・部活動ガイドラインの趣旨を踏まえて、生徒に充実した活動をさせるために、科学的で計画的な指導方法の工夫をする。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・薬物乱用教室・非行防止教室を単発的に終わらせるのではなく継続的に取り組む。 ・朝食の摂食、起床就寝、自己管理等、基本的生活習慣の点検。 ・部活動ガイドラインに基づき、クラブ活動・部活動実施状況の点検および生徒の活動状況の把握。 ・パーフェクトウィークの取組結果の検証。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・薬物乱用防止教室などの取組を学校がしっかりとして続けてほしい。 ・教育活動の中で、生涯スポーツに親しむ機会を増やすべきである。地域の取組にも参加してほしい。 ・学校運営協議会としても関連諸行事に積極的に協力する。

（４）学校独自の取組

重点目標 〇「学び続けること」を学ぶ児童・生徒の育成
具体的な取組 ・小中合同で取り組む実践の拡大 ・学習規律の徹底を図り、学習に対する積極的な態度の育成（１年） ・コミュニケーション活動を取り入れた授業の積極的な展開 ・ＴＴ授業の積極的な展開 ・自学室を活用した自学自習へ向けた環境整備 ・未来スタディ、長期休業における補充学習会・自主学習会の実施 ・道徳的判断力、道徳的実践力の向上を目指し、教科書を積極的に活用した道徳授業 ・育成学級生徒や外国にルーツのある生徒について、正しい知識と認識が持てることを目指した学習の実践 ・社会の一員であることの自覚を高めていくためのキャリア教育活動の実践 ・小中一貫を意識した交流活動の継続的な実践 ・小栗栖中学校の教員が校下２小学校の授業行う。 ◎６年生の算数の授業に週１回Ｔ２として参加する（通年） ◎５年生・６年生の音楽の授業を全て行う（通年）
（取組結果を検証する）各種指標 ・小中合同研修会の充実と実践交流 ・９年間を見据えた指導指針の創造に向け、教科連携 ・小中相互の授業参観の実施 ・家庭学習課題についての現状確認及び今後に向けての協議を行う ・生徒会と児童会との交流会の実施

中間評価

各種指標結果 ・総合的な学習の時間を「共創」と呼ぶことが定着し、意識の改善が表れてきた。 ・令和７年度新校開校についての期待値は、保護者・地域の回答が重要度で「とてもそう思う」２２％

「そう思う」５１％で合わせても７３％と高い値を残している。	
自己評価	分析（成果と課題） ・小栗栖中学校の教員が校下２小学校の授業行っていることは評判がよく成果も上がっている。 ・小中合同の研修が、夏休みに３校合同で集合研修が行えたことは大きな成果である。みんなが一つの目標に向かい、その意義を共有するきっかけとなった。（冬季休業中も実施予定） ・学校祭文化の部で学年毎に取り組んだ制作が、階段や廊下に展示できている。 ・統合に向けた予算の活用方法、共有できる備品の計画的購入など、２小学校と連携を取ることを継続していく。
	分析を踏まえた取組の改善 ・総合的な学習の時間（共創）を活性化し、地域との交流、学年間交流を活性化させる。 ・中学３年の修学旅行の内容を小学校６年生と関連付けて検討中。（準備委員会において２小学校との連携）
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・学校評価アンケート ・様々な繋ぎ（結び）の実践の振り返り。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・保護者・地域を巻き込んだ良い取組を行ってほしい。 ・学校祭文化の部・合唱コンクール・体育の部の保護者参観可はありがたかった。 ・ホームページや学校だよりは学校全体の様子が伝わってくる。更新、発行を楽しみにしている。 ・スクリレは情報がよくわかって良い。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標 〇教職員一人一人が働き方改革を実践し、より働きやすい働きたくなる職場にする
具体的な取組 ・会議の精選・効率化 ・電話応対時間を午後６時 30 分までとし、以降は留守番電話に切り替えることの徹底。 ・研修などを通じて、働き方改革に関する意識の向上を行う。
（取組結果を検証する）各種指標 ・教職員の勤務時間 ・年休取得率 ・自主研修参加の回数

中間評価

各種指標結果 ・時間外勤務時間の減少に向けての各教職員の意識は定着し実践できている。 ・長期休業期間を中心に、年休取得を積極的に取得している教職員が増加している。	
自己評価	分析（成果と課題） ・閉校時間（19:30　水曜日は 19 時）を示すことで、各教職員が勤務時間を意識した仕事の進め方をし、退勤している。 ・留守番電話（対応時間の限定）は保護者に定着した。 ・長期休業期間を中心に、年休取得を取りやすい職場にする。

	・育児休務を取得する男性教員が増えている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・勤務時間を意識した働き方をするという意識改革は進んだ。学年や学校体制の中で仕事にはまだ偏りがある。 ・定期考査の午後に年休取得ができるよう、午後に行事を入れないようにし、年休取得を促進できている。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・教職員の勤務時間（超過勤務の量） ・年休取得率（男性教員の育児休業・育児休務を含む）
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・教職員の働き方改革の推進については、肯定的であり理解を示していただいている。 ・教職員の働き方改革の推進の側面的な支援。 ・夜の会議の減少、または開始時間の繰り上げ。

（６）いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標 〇いじめの未然防止のため、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりを徹底する
具体的な取組 「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
（取組結果を検証する）各種指標 ①全教職員が学校いじめ防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ②学校のいじめ対策委員会メンバーを児童生徒に紹介している。 ③いじめに係る既存の「学校評価：児童生徒アンケート項目」を活用し、経年変化を比較し教職員が共有し、適切な対応を迅速に行う。 ④児童生徒・保護者の訴え（アンケート結果を含む）や相談内容を共有している。 ⑤保護者や学校運営協議会に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明。周知している。

中間評価

各種指標結果 ・いじめに関するアンケートの活用により、教員側でキャッチし適切な対応ができた。 ・アンケートに書くことに抵抗を持たなくなり、正直に書く傾向が見られ、効果が表れている。 ・生徒、保護者、地域、教職員が同じ視点でいじめに対する意識を持つことができるようななってきている。 ・指標③については、学校評価アンケートで「小栗栖中学校は生命を大切にする心を育み、いじめや暴力を許さない学校づくりに取り組んでいる」の項目で６８％の保護者が重要性を感じ、そのうち５４％が達成度として「とてもそう思う。」「そう思う。」を選択している。昨年度より下降気味であるため改めて周知したい。 ・指標④については、学校評価アンケートで「保護者が生徒のことで困ったとき、先生は相談しやすい雰囲気である」という項目で８４％の保護者が重要性を感じているが、達成度は「とてもそう思う。」「そう思う。」が７３％であることはまだまだ改善していく必要がある。

<table>
<tr><td rowspan="3">自己評価</td><td>分析（成果と課題）
・補導部会に加え、いじめ対策委員会を定期的に開催し、クラス、学年にとどまらず風通しがいい環境を作れていることが、防止につながっている。（ＳＣとも連携）
・保護者からの声を敏感にキャッチし、連携を取ることができている。
・教育相談の場面だけでなく、日頃の会話に重点を置き、生徒がいじめに関すること以外でも気楽に話せる状況を絶えず確立し、万が一に備えていることが生徒にも浸透している。
・２小学校との連携の中で、兄弟関係、家庭環境を共有し、今後の統合に向けた地盤を固めている。</td></tr>
<tr><td>分析を踏まえた取組の改善
・教育相談という形にとらわれず、いつでも気楽に、話せる・相談できる信頼関係のさらなる構築を目指す。
・小学校からの情報は絶えず教職員の中で共有し、守秘義務の元、対応していく。</td></tr>
<tr><td>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
・いじめに関するアンケート
・クラスマネジメントシート
・教育相談のまとめ</td></tr>
<tr><td>学校関係者評価</td><td>学校関係者による意見・支援策
・小中連携して、児童生徒の様子を見てほしい。
・いじめの無い小栗栖中学校であり、栄桜小中学校に安心して通わせられるよう、小学校との連携を密にしてほしい。
・学校運営協議会として「いじめ防止」に向けて積極的に協力する。</td></tr>
</table>